

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ漂着したホシダカラガイ  
(腹足綱、タカラガイ科) の成貝

久保田 信\*

Mature individual of *Cypraea tigris* (Gastropoda, Cypraeidae)  
at “Kitahama” beach of the Seto Marine Biological  
Laboratory, Kyoto University in Shirahama, Wakayama  
Prefecture, Japan

Shin KUBOTA \*

\*〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

\* Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and  
Research Center, Kyoto University, Shirahama Town 459, Nishimuro,  
Wakayama Prefecture 649-2211, Japan

kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

インド - 西太平洋の水深 40 m までの岩礁やサンゴ礁に生息するホシダカラガイ *Cypraea tigris* Linnaeus, 1758 は、わが国に産するタカラガイ類の中で 2 番目の大型種であり、日本での最大個体は 125 mm の殻長に達する (池田・淤見, 2007)。本種は関東地方の三浦半島付近が北限分布海域であるが、和歌山県沿岸ではこれまで成貝も記録されている (田名瀬・久保田・樫山 1999)。和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨

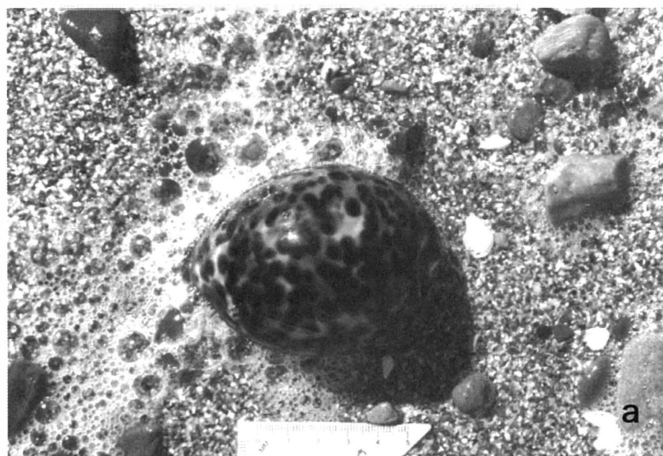


図1 2017年2月21日、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に死亡漂着したホシダカラガイの成貝, a: 波打ち際へ漂着; b: 腐肉が少し残る腹面。

海実験所付近からの記録によると,1974 年以降,本種の発見個体数は少ないままで,その中でも成貝はごく少数である(田名瀬・久保田・榎山 1999; 久保田 2006, 2008)。今回,“北浜”へ漂着したホシダカラの成貝を波打ち際で発見したので報告する。

2017 年 2 月 21 日に採集した 1 個体の貝殻には光沢があり,殻長 82 mm, 殻幅 55 mm, 殻高 44 mm (図 1a) であった。しかし, 死亡後数日ほどが経過しており, 腐臭漂う軟体部の一部しか残っていなかった(図 1b)。当海域では一年の内で 2 月が海水温が最も低くなるので, 凍死した可能性がある(久保田ほか 2011 参照)。

#### 引用文献

- 久保田 信. 2006. *In* 宝の海から—白浜で出会った生き物たち—, pp.96-97, 図版 27, 紀伊民報, 和歌山県。
- 久保田 信. 2008. 和歌山県白浜町沿岸における生きたホシダカラガイ(腹足綱、タカラガイ科)の 5 例目個体. くろしお 27: 11-12.
- 久保田 信・田名瀬英朋・武藤望生・東海林 明・木村一品・中坊徹次. 2011. 和歌山県田辺湾における 2011 年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌 9: 13-16.
- 池田 等・淤見慶宏. 2007. タカラガイ・ガイドブック. 215pp., 東京書籍, 東京。
- 田名瀬英朋・久保田 信・榎山嘉郎. 1999. 白浜町(和歌山県)のホシダカラガイ(腹足綱、タカラガイ科)の最近の記録. 南紀生物 41(1): 75-76.